

2014年11月 第123（定期）教区会 開会演説

主教 アンデレ大畑 喜道

◇はじめに

・教区の再生に向かって

本日は休日にも拘らず東京教区のためにお集まり頂き本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。今回の教区会は来年度の活動計画、予算などが主なものとなります。教会が本来なすべきことは何か。それは今日の聖餐式の特祷にあったように、イエスにならい、破れの多いこの世界を回復支えていくこと、そのために平和に対する責任があること。竹田主教時代に決められた東京教区の宣教方針にもあるように、また福音書にもあったように小さくされた人とともに、この世界の弱くされている人々と寄り添う、そのために信徒も教役者も一体となってその使命を果たしていくものでしょう。それを踏まえたうえで、教区の今後の宣教に向かって何をなすべきかを忌憚ない意見の交換ができたかと願っています。そのために特に、再編成準備室の経過報告や提言を考える時間を取っていただいています。誰かがやってくれることを待つのではなく、神にゆだねられた使命が何であり、何をすべきかを実行していくために分かち合いの時を持ちたいと考えています。現在、再編成準備室ではアンケートによる現状の把握を丁寧に行っているために、当初の計画通りには進んでいません。それは予想した以上に皆様が意見を出していただいたことの結果であり、皆様が真剣に教区の今後について考えていただいていることの表れであると考えています。そのとりまとめと提言作成に邁進しています。詳しくは再編成準備室の報告、提言にゆだねますが、私たちはアンケートに対する報告や提言をただ単にお聞きするだけではなく、これをもとに素晴らしい教会共同体へと成長していくために、一歩でも二歩でも前進させていくために、自分は何ができるかを実行していただきたいと思います。抜本的な改革をする時が来ています。今は過渡期ではありますが、各委員会の働きも大切にしながら、これからも改革の準備の期間として、今は皆様と丁寧なキャッチボールができることを望みます。少しずつではありますが変化がでてきていると感じています。

今年は日韓宣教協働 30 周年の年でもあり、2014 年 10 月 20 日から 23 日まで、韓国の済州島において日本聖公会首座主教・大韓聖公会議長主教をはじめ、韓国 3 教区、日本 11 教区の主教・司祭・信徒が参加して開催されました。宣教協働者・女性・青年の代表らを含め、韓国側 36 名、日本側 51 名、計 87 名の参加で行われ、声明文が受諾されました。この声明は細かい文言の訂正作業などがあったために、皆様のお手元には届くのが遅くなり、本日挟み込みをさせていただきました。これからの日韓の聖公会が取り組んでいく方向性が明確にされていると思いますので、ぜひ熟読していただきたいと思います。基本的な事柄についての声明の趣旨は「国家的な利害関係を乗り越えて、平和共同体を構築する必要がある。東北アジアでの平和が世界に広がっていくように、こ

の地域での平和を守り、造りだし、築き、神の国を可視化していく作業をしていくために、より一層の協力をしていこう」ということであったと理解しています。その具体的な働きについてはまだまだ展開を待たなければなりません。小職としては、皆様のお力をお借りしながら、協働して平和を作り上げていくための活動を開始してまいりたいと思います。先の総会において日本聖公会はヘイトスピーチに反対する決議を行いました。日本と東アジアとの政治的な関係は必ずしも良好であるとは言えません。しかし教会こそが、目に見える形で友好関係を樹立していく必要があると考えます。かつて40年前にB Tプロジェクトが立ち上がり、釜山教区と協働して蔚山の教会形成尽力したように、物心両面で済州島の教会の教会形成に対し支援することもでてくるでしょう。また日韓の懸け橋になり、協働のかなめとなる人材を派遣すること。在日、滞日の韓国人のために礼拝を行っていくということも視野に入れたいと考えています。教区の宣教課題に積極的に協力して下さる教会を求めます。

・ 教役者の成長 祈りと黙想

様々な協働や宣教活動を推進させていくためには私たちは基本的なことをしっかりと固めていく必要があります。2012年の宣教協議会で話し合われた、丁寧な牧会を推し進めていくために、その第一歩として教役者はともに一致して祈り、御言葉を大切にする機会の重要性が不可欠と考えます。小職としては、主教座聖堂の活動の一つとして、来年も、宿泊の黙想会や研修会を計画していただいています。自分が召されて何をなすべきなのかを静かに祈り、神からの問いかけを受け止めて行動していくことの重要なことは改めて申し上げるまでもないことです。具体的には祈祷書で書かれている聖職按手の約束に対する誠実さに向き合うということであると考えます。それがなければ宣教することもできません。そのために各教会におかれましては、まず教役者が一致し宣教に邁進していくことができるように、黙想会に対して、教役者の研修に関して、教役者各位の参加に関して特別のご配慮、教役者への促しをお願いする次第です。まず教役者が先頭に立って、祈りと御言葉の学びによって信仰を強めていくことができるようにお支えいただければと思います。短期的な研修の機会、たとえばパレスチナでの研修や韓国での研修などにも積極的に参加できるように促していただきたいと願います。また。この春の教区会でも申し上げましたが、教役者の休暇という点について再度もうしあげたいと思います。教役者がリフレッシュのために休暇を取るように一応の定めがありますが、教役者が十分な働きをしていくことができるように、この教役者不足の現状であるからこそ大切なことなのだとということで、推進していただければと思います。

◇新しい体制の確立に向けて

信徒、教役者は、真剣に危機的状況であることを認識し、新しい船出のために準備をしてまいりましょうと呼びかけました。その呼びかけに応えて多くの教会で、ミッショ

ンやビジョンの見直しや再確認がなされています。素晴らしい動きであると感じています。引き続き、このことを深めていっていただきたいと思います。各教会におかれましても来年度は教区内教会間の協働体制を推進していくために、積極的に礼拝を共同で行う、宣教活動を協力し合うなどという具体策を推し進めて参りましょう。互いの信頼関係が作りあげていくためには、教役者の研修も不可欠ですが、信徒各位の自己訓練や鍛錬の必要を感じています。そのために多くの研修会や黙想会が開催されていますが、積極的に自己変革をしていっていただきたいと思います。再々申し上げますが、総論賛成、各論反対というような状況では、福音の宣教のために、危機をチャンスに転じていくことはできません。福音宣教のために自分は何をするか、変革を恐れずに進んで行っていただきたいと思います。

・女性や青年の参画が教会の新しい枠組みを作っていく

今年は青年会が立ち上がりました。若い世代の人々が集まり、自分たちの意見を積極的に教区の宣教に反映させていたっていただきたいと思います。彼ら、彼女らの集まる場を提供してくださっている聖アンデレ教会に感謝申し上げます。またチャプレンとして上田亜樹子司祭に担当していただいています。立教女学院のチャプレンとしての働きもある中でお引き受けいただいています。これからの青年活動がますます活発になりますように各教会におかれましても応援をしていただければ幸いです。組織の改編も早急に進めていかなければいけないことは重々承知していますが、青年たちの自発的な活動を阻害しないように大いに盛り上げていきたいと思っています。女性や青年の活動が教会から疎外されては将来はありません。常にそのことに対する意識を持ち続けましょう。女性や若い世代の人たちの考え方が新しい体制を作っていくためにも、教会の変革のためにもぜひ必要な力だと信じています。教区の諸委員会活動のありようや、今後の活動、現在の教会グループの再編についてと課題は山積していますが、一つ一つを丁寧に実施してまいりましょう。

◇他の諸教会との連帯 東日本大震災支援、パレスチナ支援その他

今年、イスラエルではガザの空爆が行われたりしました。ニュースが連日流されて、多くの方々が心を痛めたと思います。小職は9月にはイスラエルを訪問させていただきました。空爆だけではなく、人権無視や悲惨な状態においてもクリスチャンたちが、必死に祈り、生活していることを目の当たりにいたしました。自分たちのことを忘れることなく祈ってくださることに大きな励ましと勇気が与えられているということを知りました。各教会にはイスラエル中東聖公会のスヘイル・ダワーニ主教の要請により、アリ・アハリ病院の支援を行うべく、募金のお願いをいたしました。各教会におかれましても募金の要請にお応えいただきましたことを感謝申し上げます。パレスチナの人々の置かれている状況はなかなかニュースにならなくなっていて記憶のかなたに消えてしまっている方もあるかもしれません。しかし今も現状は何一つ変わってはいません。そんな中で困難な状況におかれている状態においてもクリスチャンたちが、必死に祈り、生活していることを思うときに、今後も忘れることな

く祈り続けて参りましょう。

2011年に起こった東日本大震災から三年半あまり。各教会においても祈りをささげていただきました。信施も奉献していただきました。人的にも被災された地域に出向いたり、避難されている方々に寄り添おうと活動して下さっていること、また祈りの応援をしてくださっていることは本当に感謝です。管区の支援活動「いっしょに歩こう!プロジェクト」はパート2として、東北教区主体の「だいに東北」と管区の働きとして「原発と放射能に関するプロジェクト」が活動しています。東北教区の活動も来年5月で一応の終結を迎えることと思いますが、東北教区東日本大震災被災者支援室の働きは、期間を定めずに継続していくそうです。教務所内に担当デスクを置き有給専任スタッフは置かずに、支援室の働きは、宣教部の中に位置づけるようです。宣教部、仙台基督教会をはじめとした信徒諸氏が、これまでに以上に関わりを持っていくこと。現在のセンター新地の働きの中で、重要性を増している原発からの避難者の仮設「雁小屋仮設」への関わりは、管区の「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」に委譲していく方向であるとお聞きしています。規模は小さくなりますが、これまで同様、「巡礼の旅」、訪問者の受け入れ、案内等を重視し、そのご要望にはお応えしていけるものと考えているそうです。正式には管区のしかるべき決定を待たなければなりません。東北教区の動きとも連動しつつ、今後も応援を続けていきたいと思えます。東京教区の具体的な支援の一つとして教区から東北教区へ、事務スタッフとして、来年度も引き続き、聖アンデレ教会の信徒である松村豊さんを派遣いたします。これからは小さな声をしっかりと聴いて、自分の生活を変えていく勇気を持ちましょう。これからは自分たちの思いではなく、地域の人々の思いにできる限り寄り添いながら支援を続けて参りたいと思えます。今まで毎月第3主日に行われていた東日本大震災を覚えての礼拝も、各教会グループを隔月で回るようになりました。今までなかなか参加していただけなかった方々が一緒に祈りの輪に加わっていただけたことはうれしい限りです。これからは引き続き、地震や津波の被害に遭われた方々、原発事故の犠牲となっている方々のため、また悲しみや辛さの中にある人々と連帯しながらこれからも活動していきましょう。自分のことだけではなく、他の人々の命や健康、財産、希望などを犠牲にしていくような社会構造に対して、私たちはもっとしっかりとした態度表明や活動をしていかなければならないでしょう。

11月1日付で、英国レスター教区からスティーブン・アンドリュー・クロフツ司祭が出向されました。当面は聖十字教会に居住し、主教座聖堂の仕事を手伝いながら日本語の学びを深めていっていただきたいと考えています。ゆくゆくは宣教の最前線で一緒に協働して下さることと思えます。11月21日に来日されました。本日は番外議員として参加されていますので、ご紹介いたします。また本日、公示を各教会にお出ししましたが、2015年1月31日(土)聖アンデレ主教座聖堂において、倉沢一太郎執事の司祭按手式を行う予定です。新しい力の活躍を期待いたします。また最後に教区青年会の世話人の方々からも発言していただきます。皆様の大きな拍手をもって応援をしてください。

ご清聴感謝申し上げます。